

東京藝術大学美術学部絵画科

日本画

Tokyo university of the Arts

Japanese Paintings



美術学部 アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

美術学部では、130年の歴史の中で美術の各分野において時代を代表する作家、研究者教育者を輩出してきました。本学部ではこうした伝統のなかで培われた創造性を身につけ、新たなる時代に対応し、優れたオリジナリティを發揮できる人材の育成を目的としています。本学部で学ぶ学生には、歴史のなかで蓄積された技芸と知識を修得し、さらにその成果を革新し、発展させ、広く世界の文化と社会のために貢献する能力が望されます。

こうした理念を踏まえ、真摯な姿勢で教員とともに研鑽を積み、美術の世界に豊かな収穫をもたらす学生を広く求めています。



教員（2022年度）

齋藤 典彦 教授
吉村 誠司 教授
植田 一穂 教授
海老 洋 教授
宮北 千織 准教授
高島 圭史 准教授
松岡 歩 助教

長澤 耕平 テクニカルインストラクター
川崎 麻央 テクニカルインストラクター
山田 雄貴 テクニカルインストラクター
澤崎 華子 教育研究助手
森友 紀恵 教育研究助手
杉山 佳 教育研究助手
岩谷 晃太 教育研究助手
古山 結 教育研究助手
椎野 倫奈 教育研究助手
角谷 紀章 教育研究助手



日本画の入試について

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻の入試選抜は、大学入学共通テスト、本学が実施する実技試験、出身校校長から提出された調査書の各資料を総合的に判断し合格者を決定します。実技試験は一次入試として「鉛筆素描」を行い、一次入試合格者のみに、二次入試「着彩写生」を課します。詳細については今後（11月）発行する『東京藝術大学学生募集要項』、または藝大HP（ホームページ:www.gaidai.ac.jp）の更新情報を確認してください。



日本画の出題について（2022年度）



●学部入試一次入試 出題（12時間）

二日間で鉛筆素描一枚を完成させなさい。

※石膏像は二体以上描くこと。

画面は縦に使っても横に使っても構いません。

一日目 9:00～12:00 12:30～15:30 (昼食時間 12:00～12:30)

二日目 9:00～12:00 12:30～15:30 (昼食時間 12:00～12:30)



- ・観察力、構成力や基礎的な描写力の有無を判断するための出題である。
- テーブルの上に布を敷き、背中合わせに3体の石膏（ジョルジョ）を置くことで、静物画としての要素も加えた。
- 空間認識力、構図の工夫がされているか、また絵画としての意識を持って全体のバランスを捉えられているかも評価の対象となった。



●学部入試二次入試 出題（12時間）

着彩写生：以下、すべてのモチーフを構成して着彩写生すること。

- ・ミニズクの剥製 ×1
- ・ユーカリ
- ・ガラス器（水入り）×1
- ・かぼちゃ ×1/4（ラップは外し、描かないこと。）
- ・りんご ×2
- ・卵（茶）×2（白） ×3（ケースは描かないこと）
- ・色画用紙3色各1枚
- ・針金 ×1
- ・紙袋（ビニール入り）×1

※色画用紙は破らないこと。※針金で他のモチーフを傷付けないこと。※紙袋はビニール袋から出さない。※かぼちゃのラップは1日目の終わりにかけて帰ってもよい。

一日目 9:00～12:00 12:30～15:30 (昼食時間 12:00～12:30)

二日目 9:00～12:00 12:30～15:30 (昼食時間 12:00～12:30)



- 各自がモチーフを組むことにより、構成力・出題意図をどのように解釈したかを見る。
- 対象の大小関係や平面上の位置関係を見る力、空間認識能力、明度・彩度を含む色彩感覚を持ち、それらを表現する力があるかを判断するための出題である。モチーフそのものの実感や、質感等の様々な違いが書き分けられた上で、全体のバランスがとれているかも大切な評価基準である。



カリキュラムについて

日本画科は作家及び美術に関わる諸分野での指導的人材の養成を目標としています。これを実現するために本科における研究教育は現代絵画としての創造性の追求と同時に、わが国の美術の伝統と精神を継承し、これを発展させることを主軸に捉えています。

主な授業科目としては、人物・風景・静物・動植物画、版画・壁画の制作、古典模写、人物素描、材料研究、古美術研究旅行、写生旅行等があり、課題別に定められた期間で履修していきます。学部においては、1・2学年を基礎課程と位置づけ、伝統的な技法の習得と造形・表現力を養うことを目指します。3学年以降の発展課程では、自由課題を主に前述の事項をさらに前進させ、最終の4学年では集大成となる大作を制作し卒業制作展で発表します。



学部3年在学
木下怜奈

在学生からの
メッセージ

大学では様々なことを学び経験することで自分の世界が広がり、そしてより自分を知っていくことができる場所だと感じています。

自分の遙か先を行く、作家として活躍されている先生方にご指導いただいたり交流することで、今まで全く自分にはなかった発想や感じ方、考え方を知ることができます。それらを自分で考え咀嚼し理解したとき、自分の中の世界が広がっていくように感じます。まだまだ自分の知らない世界があって、それらを知っていくことはとても楽しいです。

大学には同じ日本画専攻内でも、全く違った考え方やそれぞれ興味のあること、さまざまな好きなものを持った先輩や同級生、後輩がいます。その中でいろんな考えに触れて交流したり、いろんな人の作品や制作経過を見ることで自分は何に興味があるのか、何が好きなのか、何ができるのか、何を突き詰めていきたいのかが少しずつ見えてきます。これは同じ場所で制作を共にした人たちがいたからだと思います。

なんとなくぼんやりとずっと絵を描いていけるといいなと思っていた頃から、大学に入ってずいぶんと具体的に将来について考え、見えてくるようになりました。それは大学という場所でいろんな方と過ごせたからこそです。



2022年 人物制作 50号「庭」



絹本裏打ち指導



百合制作



絵具講義



絵過去現在因果経模写



学部4年在学
柏山芽衣

在学生からの
メッセージ

大学生活では、日本画の伝統的な技法を学べるのはもちろんのこと、級友たちとの対話を通して物事をより多角的に捉えたりもできます。また色んな分野の授業や教養科目を通して新たな考え方や思想を知り、それを時に制作に紐付けていくこともあります。

学部1、2年次の基礎的な課題を経て3年生以降は自由制作課題が増え、自分の表現についてより実践的に考えるようになりました。

私自身は入学当初から乖離してしまいがちだった作品に対する思いや考えと画面上の表現が、制作を重ねる中で少しづつ近づいてきたことを感じています。

これからも絵を描いていく中で作品が手からこぼれ落ちてしまうことばかりだと思いますが、大学での制作を通して繰り返し絵を手繰り寄せしていくこと、その様々な手段を学んでいきたいと思っています。



2022年 F100号 自由制作 「閉ざされた場所たち」



日本画 年間カリキュラム

【前期】

月	4月	5月	6月	7月	7/27~9/30
1年	植物(百合)	植物(菊)	隨身庭騎絵巻 模写	風景制作 50号	
2年	絵因果経 模写	東北写生旅行	風景制作 50号	人物制作 50号	
3年	版画・壁画 集中講義	人物制作 50号	風景制作 50号	自由制作 50号	
4年	自画像 15号	自由制作 100号程度		自由制作 100号以上	夏季休業

【後期】

月	10月	11月	12月	1月	
1年	人物制作 30号	静物制作 50号	動物制作 50号	自画像制作(絹本) 15号	
2年	源氏物語絵巻 模写	自由制作 50号	風景制作(建造物) 50号	自由制作(絹本) 30号程度	
3年	自由制作	古美術研究旅行 (奈良・京都)	自由制作	自由制作	
4年	卒業制作			自由制作	卒業制作展

【材料講義】

- ・絵具講義
- ・筆講義
- ・和紙講義
- ・絹本講義
- ・日本画材料講義
- ・箔講義(平押し)
- ・箔講義(切金・砂子)
- ・裏打ち講義(模写)
- ・裏打ち講義(絹本)
- ・裏打ち講義(150号)
- ・絵画講義 等



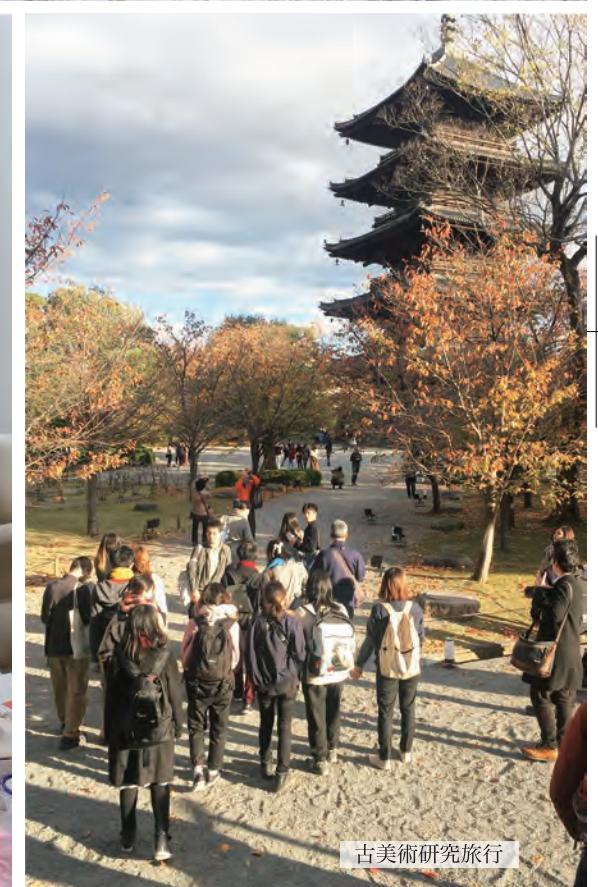
裏打ち講義



東北写生旅行



模写ガイダンス



古美術研究旅行



版画集中講義



壁画集中講義



和紙講義



合同研究会



修了制作風景



卒業制作風景



卒業制作展 搬入



修士1年在学
原澤亨輔

在学生からの
メッセージ

卒業制作は大学がある上野を舞台に描きました。藝大は東京という都市の中にありながら、上野公園や不忍池といった自然や寛永寺などの歴史的建造物、美術館や博物館に囲まれ、都市、自然、歴史、芸術が共生した真摯に創作活動に向き合える環境です。モチーフを探す時や、制作に疲れた時は学校の周りをよく散歩していました。

卒業制作は今までの創作活動の集大成です。150号の大画面に向かって閃いたり、悩んだり、思いもよらない奇跡が生まれたり、一つの作品に夢中になって書き続けた期間はとても幸せでした。

そしてこの4年間で得たこととして、互いに切磋琢磨し合える仲間に出会えたことは私にとって何より変え難く、大切な経験になったと感じます。

創ることが誰よりも好きな人達が藝大に入ってきます。制作について話し合ったり、時には意見が合わず喧嘩した事も今となっては素晴らしい体験だったと感じます。



2022年 卒業制作 F150 「幻想」



進路について

研究を深めるため、大学院修士課程へ進学する学生が多いですが、教職に就く者、就職を希望する者、様々です。将来的には作家として個展・公募展・グループ展等で自作品を発表し、美術界の第一線で活躍している者、小中高等学校、国内外の美術・教育系大学の教員、美術予備校などの講師に採用される者も多数います。また近年、国費留学・私費留学生として海外へ留学する者も多くなっています。

卒業後の主な進路先

日本画家
国立印刷局
サイバーエージェント
美術館・博物館・学芸員
漫画家
ポリフォニー・デジタル

QLUTCH
宝塚舞台
カイカイキキ
オリエンタルランド
NHK エデュケーション
コナミ

チームラボ
凸版印刷
任天堂
フロムソフトウェア
三松
等



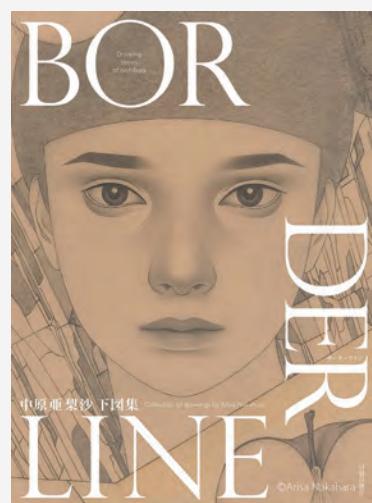
卒業生からのメッセージ



アーティスト
中原亜梨沙



現在は国内外で活動をしています。「誰でもない誰か」を心がけて人物を描いていますが、絵の人物に匿名性を持たせるスタイルは大学時代に多くの時間を費やしたデッサンがきっかけとなりました。一人のモデルさんを描き続けた結果、私が描きたい事柄は特定の人物ではなくそこにある存在感だということに気付き今に繋がっています。大学では日本画制作だけでなく人物デッサンやその他自身に向こう環境が整っていたことがとても良かったです。皆様に新しい出会いがあることを祈っています。



下図集『BORDERLINE』日販出版社



小学館の図鑑NEO『新版星と星座』挿絵 小学館



画集『ゆうなれば花』芸術新聞社



任天堂
キャラクターデザイナー
木村洋佑

学部卒業後、現在の会社に就職しました。
ゲーム開発の現場で、キャラクターデザイナーとして働いています。

キャラクターデザイナーの業務は多岐に渡り、
デザイン、モデリング、アニメーションまで幅広い業
務に関わります。

さまざまな職種の人たちと関わりながら、作った
ものが世界中のお客様に届き、楽しんでいただけ
るやりがいのある仕事です。
業務でも、受験を通して培ったデッサン力や観察
力、在学中に絵画制作を通して培養った色彩、造
形に対する美意識やこだわりが今の仕事の基盤
になっています。



(c) Nintendo



コーネーテクモ
CGデザイナー
林さわ子

現在ゲーム会社でCGデザイナーとして働いていま
す。

大学では、レベルの高い同級生と同じアトリエで切
磋琢磨しながら一緒に制作した事で、技術的にも精
神的にも成長する事が出来ました。今となっては非常
に貴重な経験だったと感じています。

日本画科の受験と大学生活を通じて、ものづくりを
する上で大切な基礎力を養う事が出来ました。物に
対しての観察力やデッサン力、一つの作品を完成さ
せる責任感等、今の仕事でも大変役に立っています。



「始まりの地」